

おかげさまで、 国語

題字
国語部長
磯村 彰久先生



岡崎市現職研修委員会
国語部

令和6年11月1日(金)
第2号

日常から言語能力を磨く

国語部長 鈴木紀子

一年生の児童から「校長先生、白いお月さまだよ」と促され視線を上げる。天高く突き抜ける青空に昼間の月を見た。雲と同じ色の月だった。「へえ、きれいだねえ」とありきたりな言葉しか返すことができなかった私に、

「うん、うさぎさんはね、昼間もいるんだよ。」

と、彼女が得意げに教えてくれた。「学校の下のイガは緑色だけど、こっちのクリのイガは、もうすぐ落ちるよ。だって茶色だもん。」

「アケビはね、ふっくらふくらんできたら、食べどきだよ。」

登校する児童らと共に歩く道には、歩いただけの発音がある。自然界の美しさについて、一旦、

子供の手にかかると、その観察力の練磨に舌を巻く。

靄のかかった年老いた目では

気づかなかったことでも、眼前にくつきりと、飛び出して来たかのように、言葉が映像として、展開されるのだ。今までどうしてこの景色に気がつかなかったか不思議に思われるのである。

このような日常の一場面からも考えてみると「学ぶ」とは、目の前の景色や事物を、それだけでは見逃さずに「ある事柄(事物)をどれだけ深く多様に感じ取ることでできるか」ということに他ならないのではないかと気がする。そして、実は、「書くこと」や「話すこと」の内容の取捨選択について積み重ねた修業は、こうして磨かれていくのだ。

子供の感性は素晴らしい。ただ、その子供らが、「書きたい」「伝えたい、話したい」、意欲を引き出す基盤には、日々の耕しが必要だと

思う。その上で、「魅力のあふれる言語活動」を取り入れ、手立てを工夫した授業作りに奮闘し続ける国語教師でありたい。そんな教師、恩師との多くの出会いのおかげで今の私がある。

最初の出会いは、神藤住代先生だ。小学五年生のとき、私たちにピンク色のハードカバーの日記帳をくださった。その美しい装丁の特別な宝物は、私に、書くことの喜びと楽しさを教えてくれた。

日記から書くことの種を収集し、作文としてまとめる。そして、一枚文集を毎日配られ、さまざまな発見を学級で共有したことは、今でもくつきりと私の脳裏に焼きついている。

日記とはいえ、共に言語活動に取り組むことは、個人の表現能力の基盤となるだけでなく学級全体の学力基盤として機能する点でも重要である。経験したことを他者にうまく説明したり、情報を共有

した上で考えを広げたりすることができる。つまり、新しい考え方やアイデアが創造されたり、知識の深まりを生み出したりすることにもつながるといって効果がある。

一方、言語能力には単元や教科を超えた学力の基盤となる役割もある。ただし、効果的な学力構築のために、内容を適切に読み取りつつ他者にも考えを分かりやすく伝えたり、順序よく話したりする力をつけることは、国語科中心の仕事であると考えられる。このような活動は、周知のごとく特定の学習内容や教科に限定されるものではなく、さまざまな教科学習の活動の一部ともなっている。国語科は、重要な役割を担う教科である意欲をもち続けたい。

本校では今も「しもやまことばノート」に取り組んでいる。日記である。日常から、感性を磨き、子供の言語能力を信じて生かす。教育のプロとして授業や学級経営につなげる努力を意気に感じて、実践している・・・。そのような教師があふれることに、還暦を迎えた今、うれしく、そして、頼もしく思う。

感性豊かな子供たちと、そして、頼もしい教師と過ごすうちにまた、私の目尻に多くの笑い皺が増えるのである。



授業力・教師力アップセミナー
【基礎編】

七月二十四日(水)、総合学習センターにて、授業力・教師力アップセミナー【基礎編】が行われました。



研修1では、小学校は石田勝重先生、中学校は高橋遼先生を講師に、「もう困らない！文学的文章の基礎・基本」の講座が行われました。文学的文章を教材研究するときの読み方や、授業での発問の立て方など、指導の基本的なポイントを学びました。

研修2では、石川俊之先生を講師に、「やってみたくなる！読書指導のアイデア紹介とグループワーク」の講座が行われました。参加者は読書指導のアイデアを学び、グループワークとしてビブリオバトルの体験もしました。

研修3では、市川岸江先生を講師に、「これでばっちり！書写授業のポイントまるわかり」の講座が行われました。参加者は、実演をスクリーンで見ながら毛筆の筆遣いを実践し、書写指導の基礎・基本を学びました。

【参加者の声】

・「このときの気持ちは」という発問を多くしがちでしたが、もつと子供たちが考えたいくなるような問い方をしたいと思いました。

・初めてビブリオバトルを体験しましたが、とても楽しかったので、今後の読書指導の中で実践してみたいと思いました。

・朱墨を使うと穂先の通り道が分かりやすいと実感しました。とても勉強になりました。

令和六年度

岡崎市教育研究大会

八月二十九日(木)に行われた令和六年度岡崎市教育研究大会では、砂川誠司先生、丹藤博文先生、佐藤洋一先生を助言者にお迎えし、熱心な提案・協議がなされました。

また、次の四名の先生が岡崎市の代表として十月十九日(土)の第七十四次教育研究愛知県集會に参加されました。

藤原 淳先生 (矢作東小)

太田秀実先生 (福岡中)

中野良彦先生 (六ツ美西部小)

次井祥太先生 (矢作北中)

文集おかげさき 第62集

岡崎市全小中学校の児童生徒の優秀な作文や詩、中学生の主張コンクール意見文など、自分自身の日常に起きた出来事を見つめ、考えを深めた作品が数多く掲載されています。また、市書き初め展において、入選した各校の作品も全て掲載されます。

〈価格〉九〇〇円

〈注文・問い合わせ先〉

六ツ美南部小 伊藤 奈央子

〈注文締切〉

第一次 令和六年十二月十三日

第二次 令和七年一月二十四日

岡崎市小中学校書き初め展

優れた諸作品の鑑賞を通して、書写に対する関心を高め、自らの字に生かそうとする心を育むように、岡崎市全小中学校の児童生徒の代表作品を展示します。

〈会期〉令和七年

一月十八日(土)～

十九日(日)

午前十時～午後五時半

(最終日は午後三時半まで)

〈会場〉岡崎市美術館



国語科指導のアイデア紹介

書写の授業では、子供が自らの書いた文字を見つめなおして課題を見つけないこと、大切にして指導を行っている。その中で、自分の書いた文字と教科書の手本を比較するための手だてとして、スクールタクトを活用する。前時の作品の写真に、手本の文字を透過させて作った画像を重ね合わせることで、子供は相違点を視覚的に捉えることができる。



上の写真は、小学校四年生「左右」の学習で、ある児童が書いた「右」の文字と、それに手本の透過画像を重ねたものである。児童は、ここから払いの方向の違いに気づき、自ら学習課題を設定した。その後、繰り返し練習に取り組み、より字形の整った文字を書くことができた。

こうした写真や画像は、ポトフォリオとして保存すれば、子供自身が学びを振り返り、成長を実感することができる。自ら課題を見つけ、主体的に学ぶ姿を引き出していきたい。

上地小学校 杉本 光